

2011年3月期 第2四半期決算概要

ルネサス エレクトロニクス株式会社

2010年10月27日

代表取締役社長 赤尾 泰

© 2010 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

00000-A

本日はご多忙のところお集まりいただき、ありがとうございます。

2011年3月期第2四半期の決算概要について
ご説明いたします。

(本プレゼンテーションに関する注意)

本資料における前連結会計年度(2010年3月期)の業績数値は、旧NECエレクトロニクス㈱と旧㈱ルネサス テクノロジーの前連結会計年度の業績数値を単純合算したものであります。なお、「売上高」および「半導体売上高」については、旧NECエレクトロニクス㈱の表示方法と整合させるために旧㈱ルネサス テクノロジーについて一部組替表示しております。

(将来予測に関する注意)

本資料に記載されているルネサス エレクトロニクスグループの計画、戦略および業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づきルネサス エレクトロニクスグループが判断しており、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、実際の業績等は、様々な要因により、これら見通し等とは大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。実際の業績等に影響を与える重要な要因としては、(1)ルネサス エレクトロニクスグループの事業領域を取り巻く日本、北米、アジア、欧州等の経済情勢、(2)市場におけるルネサス エレクトロニクスのグループ製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、(3)激しい競争にさらされた市場においてルネサス エレクトロニクスグループが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを供給し続けていくことができる能力、(4)為替レート(特に米ドルと円との為替レート)の変動等がありますが、これら以外にも様々な要因があります。また、世界経済の悪化、世界の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の低迷等により、実際の業績等が当初の見通しと異なる結果となる可能性もあります。

エグゼクティブサマリー

- **上期売上高はほぼ想定どおり。
原価率改善及び統合シナジー・製品ポートフォリオの見直し
による研究開発費効率化により営業損益は黒字転換。**
- **下期の営業損益は黒字を維持。
売上高は市況の鈍化や為替の影響により、
上期比横ばいレベルで期初想定を下回る見通し。**
- **通期で70億円の営業利益の達成を目指す。**

こちらが本日のご説明内容のサマリーでございます。

まず、2011年3月期 上期の業績につきましては、
売上高はほぼ想定どおりとなりました。

営業損益につきましては、生産増による原価率改善や統合シナジー、
製品ポートフォリオ見直しなどによる研究開発費効率化により
統合初年度の上期として黒字を達成いたしました。

次に2011年3月期下期の見通しでございますが、
市況の鈍化や為替の影響により、売上高は期初想定より下回る見通しでございますが、
営業損益は黒字を維持いたします。

2011年3月期通期の見通しにつきましても、期初に掲げました
70億円の営業黒字の目標を維持いたします。

I. 2011年3月期 第2四半期決算概要

それでは、スライドに沿ってご説明してまいります。

2011年3月期第2四半期 決算概要でございます。

2011年3月期 第2四半期(7-9月期)決算概要

- 第2四半期の売上高は、前四半期比1%増収
- 営業損益は黒字を達成

(単位：億円)	2010年3月期		2011年3月期		
	第2四半期	第1四半期	第2四半期	前年同期比	前四半期比
売上高	2,650	2,920	2,954	+304	+34
半導体売上高	2,344	2,615	2,635	+291	+20
営業損益	△439	△3	11	+450	+14
経常損益	△484	△35	△43	+441	△7
当期純損益	△548	△331	△82	+466	+249
1US\$=	-	92円	88円	-	4円/円高
1ユーロ=	-	121円	111円	-	10円/円高

まず、実績のサマリでございます。

第2四半期の半導体売上高は、前四半期との比較で20億円増の2,635億円となりました。

営業利益は11億円で、前四半期比では14億円の改善となりました。

経常損益は、為替差損や支払い利息などの営業外費用により43億円の損失、当期純損益は、82億円の損失となりました。

2011年3月期 第2四半期半導体売上高(前年同期比、前四半期比)

■ 前年同期比では、マイコンおよびアナログ&パワー半導体が大きく成長

2011年3月期			
(単位:億円)	第2四半期	前年同期比(%)	前四半期比(%)
半導体売上高	2,635	+12%	+1%
マイコン	959	+17%	△3%
アナログ&パワー半導体	835	+30%	+1%
SoC	832	△5%	+7%
その他半導体	9	+30%	△53%

事業別売上概況(前四半期比)	
マイコン	【→】: 汎用は横ばい 【↓】: 自動車は国内を中心に減収
アナログ&パワー半導体	【↑】: パワー半導体は堅調 【↓】: 表示ドライバは需要減による減収
SoC	【↑】: 民生機器、産業機器分野は増収 【↓】: 通信機器分野は国内携帯向けを中心に減収

6 © 2010 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

RENESAS

6ページは第2四半期の事業別の半導体売上高についてお示ししています。
前年同期比では、マイコンとアナログ&パワー半導体が大きく増収となりました。

第1四半期と比較すると、第2四半期の半導体売上高は1%の増収、
事業別に見ますと、

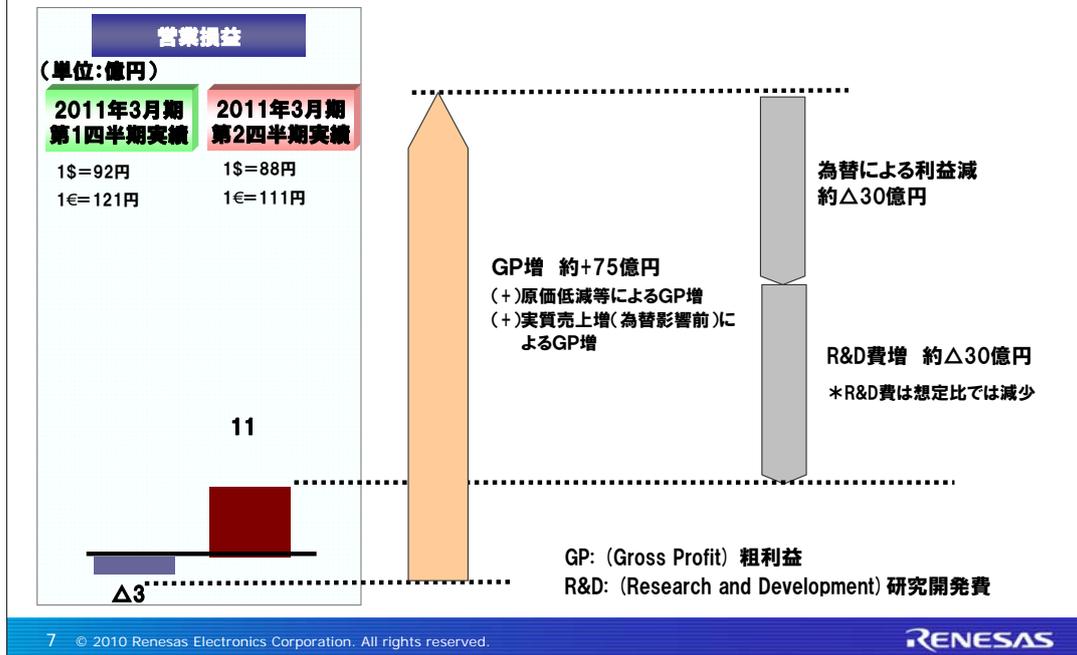
マイコンにおいては、前年同期比では大幅に増収なるも、前四半期比では汎用マイコンは横ばい、自動車向けは国内大手メーカーを中心に需要減により減収、

アナログ&パワー半導体においても前年同期比では大幅に増収なるも、前四半期比では、パワー半導体が堅調に推移したものの、大型パネル向け表示ドライバが減収となり、全体で横ばいとなりました。

SoCにおいては、通信機器分野は国内携帯電話の需要低迷の影響を受けたものの、民生機器分野や産業機器分野向けのシステムLSIを中心に前四半期比で増収となりました。

2011年3月期 第2四半期営業損益(前四半期比)

■ 第2四半期営業損益は、黒字を達成



7ページは、第2四半期の営業損益を前四半期と比較したものです。

第2四半期の営業利益につきましては、前四半期との比較において、円高の影響に加え、R&D費の増加などがあった一方、実質売上げ増や原価低減を推進し、粗利益率が改善しました。

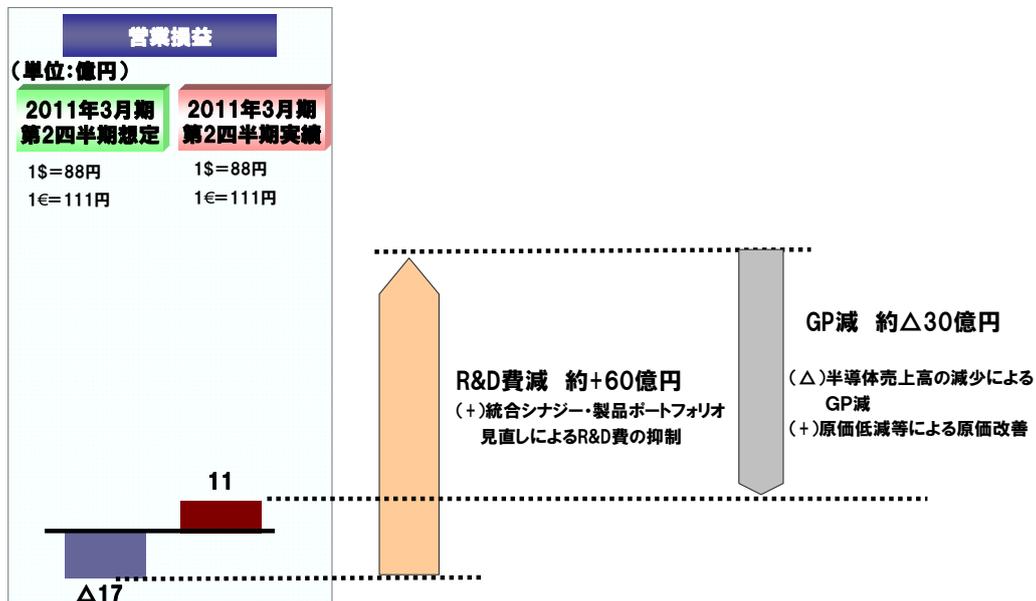
これにより、第2四半期の営業利益は14億円改善の11億円となりました。

なお、R&D費は想定比では減少となりました。

想定比との比較は次のページにお示ししております。

2011年3月期 第2四半期営業損益(想定比)

■ 第2四半期の営業損益は、売上高が期初想定より下回る中、増益を確保



8 © 2010 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

RENESAS

8ページは、第2四半期の営業損益を想定と比較したものです。

7月29日の発表時点では、第2四半期の営業損益は約17億円の損失と想定しておりました。

これに対し、想定していた半導体売上を下回ったことによる利益減があった一方、統合のシナジー効果やポートフォリオ見直しによりR&D費を想定より抑制し、第2四半期の営業損益を約28億円改善いたしました。

バランスシート

(単位:億円)	10/4期首 (増資後)	10/6末	10/9末
総資産	12,154	11,510	11,627
うち 現金及び現金同等物	3,377	3,186	3,318
うち たな卸資産	1,266	1,307	1,359
負債合計	8,017	7,775	7,992
うち 有利子負債	3,720	3,754	3,744
株主資本	4,210	3,880	3,798
純資産合計	4,136	3,735	3,635
D/Eレシオ(グロス)	0.91倍	1.02倍	1.05倍
D/Eレシオ(ネット)	0.08倍	0.15倍	0.12倍
自己資本比率	33.5%	31.9%	30.7%

(注1)①現金及び現金同等物:「現金及び預金」と「有価証券」の単純合算値から「預入期間が3か月を超える定期預金」を控除しております。
 ②有利子負債:「短期借入金」、「1年内返済予定の長期借入金」、「1年内償還予定の新株予約権付社債」、「リース債務」、「新株予約権付社債」、「長期借入金」
 ③自己資本:「株主資本」、「評価・換算差額等」
 ④D/Eレシオ(グロス):有利子負債/自己資本
 ⑤10/4期首(増資後)の負債合計には、負ののれん22億円を便宜的に含めております。
 (注2)「10/4期首(増資後)」の数値は、当連結会計年度期首の数値に2010年4月1日付の企業結合に係る会計処理および同日付の第三者割当増資約1,346億円を反映した数値です。

9ページは、バランスシートでございます。

9月末のバランスシートにつきましては、フリーキャッシュフローの改善等により現金および現金同等物が6月末比で改善し、ネットデットレシオが0.12倍となりました。

一方、当期純損失を計上した結果、株主資本が減少し、自己資本比率が30.7%となりました。

キャッシュ・フロー

(単位：億円)	2010年3月期	2011年3月期		
	第2四半期	第1四半期	第2四半期	上期
営業活動による キャッシュ・フロー	180	△20	350	330
投資活動による キャッシュ・フロー	△162	△144	△184	△328
フリー・ キャッシュ・フロー	18	△164	166	2

10ページは、キャッシュ・フローでございます。

第2四半期においては、生産増に対応した投資を行った一方、利益改善などによりキャッシュフローは大きく改善し、フリー・キャッシュ・フローは166億円の黒字となりました。

上期においても、フリー・キャッシュ・フローは黒字を維持いたしました。

II. 2011年3月期 下期および通期業績見通し

次に2011年3月期 下期および通期業績の見通しについてご説明いたします。

2011年3月期 通期業績見通し

- 100日プロジェクトのプランを着実に実行することにより、営業黒字を確保
- 売上高は、足元の市況鈍化や為替の影響を考慮し、下期および通期を修正

(単位：億円)	2010年3月期			2011年3月期			
	上期	下期	通期	上期実績	下期見通し	通期見通し	前回発表比 (7月29日)
売上高	5,003	5,621	10,624	5,875	5,825	11,700	△200
半導体売上高	4,431	4,994	9,425	5,250	5,250	10,500	△400
営業損益	△879	△254	△1,133	7	63	70	-
経常損益	△934	△320	△1,253	△78	28	△50	-
当期純損益	△992	△385	△1,378	△412	△388	△800	-
				1US\$=	90円	82円	
				1ユーロ=	116円	110円	

12 © 2010 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

RENESAS

12ページは、2011年3月期 下期および通期の業績見通しでございます。

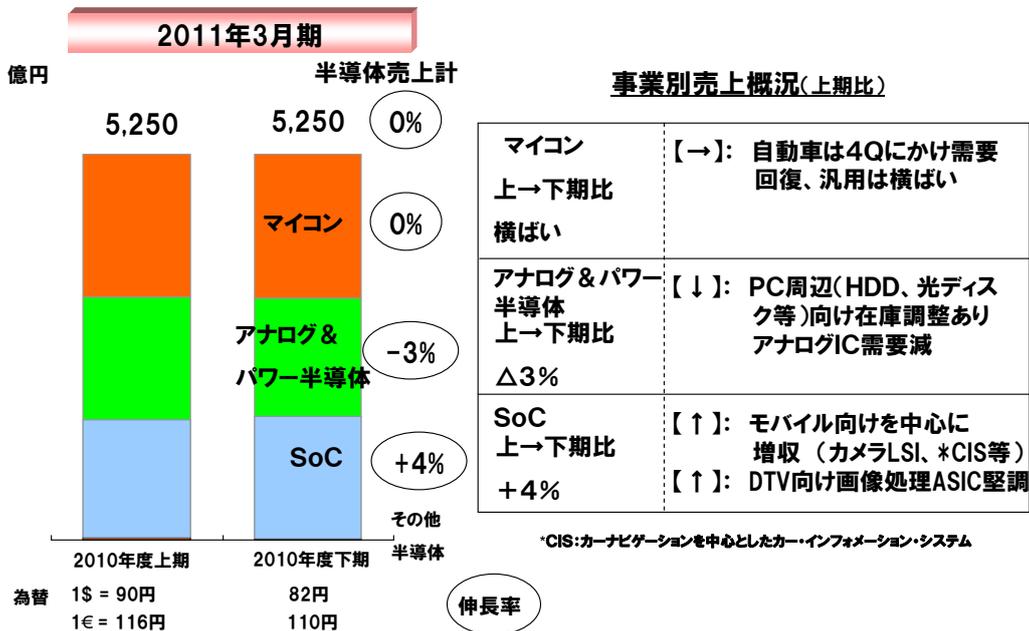
足元不透明な市況や円高の影響をふまえ、
通期の売上高見通しは1兆1700億円とし、7月29日の見通しより200億円修正いたしました。

為替の前提は1ドル82円、1ユーロ110円としております。

また、
営業損益、経常損益、当期損益につきましては前回の発表から変更しておりません。

下期半導体売上高の見通し

■ 上期実績比で横ばいの見込みだが、為替の影響を除けば実質売上増



13 © 2010 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

RENESAS

13ページは下期の事業別の半導体売上高見通しについてお示ししています。

下期の半導体売上高においては、為替の影響を考慮し、上期比で横ばいと想定しております。

事業別に見ますと、

マイコンにおいては、自動車分野向けが回復見込みであることと、汎用向けも前期から横ばいとの見通しから、上期比で横ばいの見通し

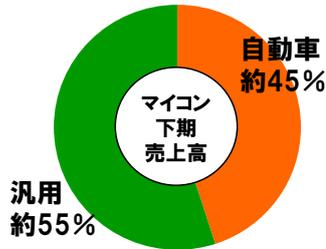
アナログ&パワー半導体においては、パワー半導体は堅調に推移するものの、ストレージや光ディスクなどのパソコン周辺機器向けアナログICの需要減あり、上期比で減収の見通し

SoCにおいては、モバイル端末向けカメラLSIやカーナビゲーションを主とするカーインフォメーションシステムやDTV向けLSIを中心に増収を見込んでおります。

マイコン事業 下期売上見通し

事業分野の当社見通し（10年度上期→下期）

マイコン事業の内訳



事業分野	見通し	市場動向	当社動向
自動車分野	下期売上見通し (上期比)	<ul style="list-style-type: none"> ・米国、中国、新興国市場の自動車販売は引き続き好調で生産台数増の見通し ・国内はエコカー補助金終了に伴い販売減 	<ul style="list-style-type: none"> ・中国、新興国市場向けは引き続き需要強い ・国内向け受注はエコカー補助金終了に伴い減少傾向だが、自動車生産の表期でもあり、年明けからの需要回復に期待
	下期売上見通し (上期比)	<ul style="list-style-type: none"> ・民生機器分野を中心に季節要因で需要は軟化の見通し 	<ul style="list-style-type: none"> ・インバータ機器中心に需要堅調の見込み ・産業分野の好調や中国市場のスマートメータ等の拡大期待

まずマイコン事業についての下期見通しを説明いたします。

当社のマイコン事業の下期売上構成比は、自動車向けで約45%、汎用で約55%となっております。

自動車市場は、国内の自動車販売は失速するものの、米国や中国、新興国市場の自動車販売は好調との見通しから、当社の自動車向けマイコンの下期は、新興国向けの需要が引き続き強いことと、国内向け需要の年明けからの回復を見込み、上期比横ばいの見通しです。

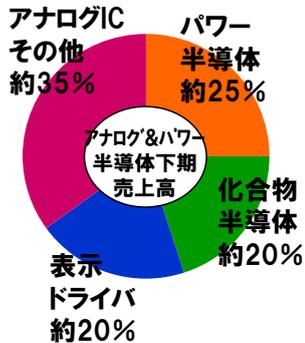
汎用マイコン市場は、特に民生機器分野が裏期にあたることもあり、需要は軟化する見込みです。

一方で当社の汎用向けマイコンは、シェアの高いインバータ機器を中心に民生機器向けが比較的堅調に推移すると見込んでおります。また、産業分野向けマイコンは引き続き需要好調であることや、中国向けのスマートメータ向けの需要が堅調に推移していることから、当社の汎用マイコンは下期横ばいと想定しております。

アナログ&パワー半導体事業 下期売上見通し

事業分野の当社見通し（10年度上期→下期）

アナログ&パワー半導体事業の内訳



事業分野	見通し	市場動向	当社動向
パワー半導体分野	下期売上見通し(上期比) ↑	<ul style="list-style-type: none"> PC市場の在庫調整により、マザーボード、電源が一時失速も年明けには回復見通し 自動車は西欧・日本が減速するも、新興国需要が牽引し、堅調に推移する見通し 	<ul style="list-style-type: none"> 年内は新興国向けインバーター家電、産業用途、年明けはPC分野向け中心に伸長見込み 自動車分野向けは表期である年明けから需要回復を見込み、通期で堅調の見込み
アナログICその他分野	下期売上見通し(上期比) ↓	<ul style="list-style-type: none"> PC周辺(HDD、光ディスク等)市場はPC市場は回復するも、在庫過多で、調整続く 自動車は新興国向需要が牽引し、堅調維持の見込み 	<ul style="list-style-type: none"> PC周辺(HDD、光ディスク等)向け部品の在庫調整続く。 自動車向けは堅調維持の見込み

次にアナログ&パワー半導体事業の下期見通しについて説明いたします。

当社のアナログ&パワー半導体事業の下期売上構成比は、パワー半導体で約25%、化合物半導体で約20%、表示ドライバで約20%、アナログICその他で約35%となっております。

パワー半導体市場においては、パソコンの在庫調整により電源等のパソコン周辺市場は一時失速との見方が強いものの、年明けには回復の見通しです。自動車においては、西欧および日本が減速するも、新興国の需要が牽引し、市場全体としては堅調に推移する見通しです。

当社のパワー半導体においては、年内は新興国向けのインバーター家電や産業用途向けが堅調に推移、年明けからは電源等のパソコン周辺向けを中心に回復する見通しです。自動車向けにおきましても、年明けからの需要回復を見込んでおり、通期では堅調に推移すると考えております。

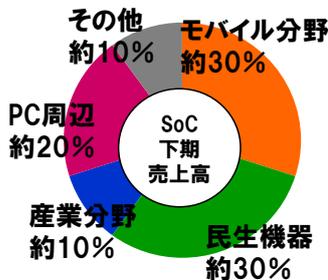
アナログICその他の市場においては、HDDや光ディスクなどのPC周辺機器の在庫調整が続くものの、自動車向けは新興国を中心に堅調な推移の見込みです。

当社においては、PC周辺向けは引き続き需要は弱いものの、自動車向けは堅調な需要が見込まれます。

SoC事業 下期売上見通し

事業分野の当社見通し（10年度上期→下期）

SoC事業の内訳



事業分野	市場動向	当社動向
モバイル分野 (携帯、*CIS) 下期売上見通し(上期比) ↑	・スマートフォンが先進国の買い替え需要を喚起 ・新興国における新規需要好調 ・W/W全体では携帯電話需要は堅調の見通し	・スマートフォン向けカメラLSI好調の見込み ・新興国における買い替え需要に伴い、パワーアップの伸長に期待 ・*CIS向け堅調の見込み
民生機器分野 下期売上見通し(上期比) →	・年末商戦後、季節要因で需要一服の見通し	・需要の裏期にあたり全体的に需要減なるも、画像処理ASICなどを中心に堅調の見通し
産業機器分野 下期売上見通し(上期比) ↑	・産業機器市場は引き続き需要堅調の見通し	・中国、新興国を中心に堅調な需要が続く見込み

*CIS:カーナビゲーションを中心としたカーインフォメーションシステム

次にSoC事業の下期見通しについてご説明いたします。

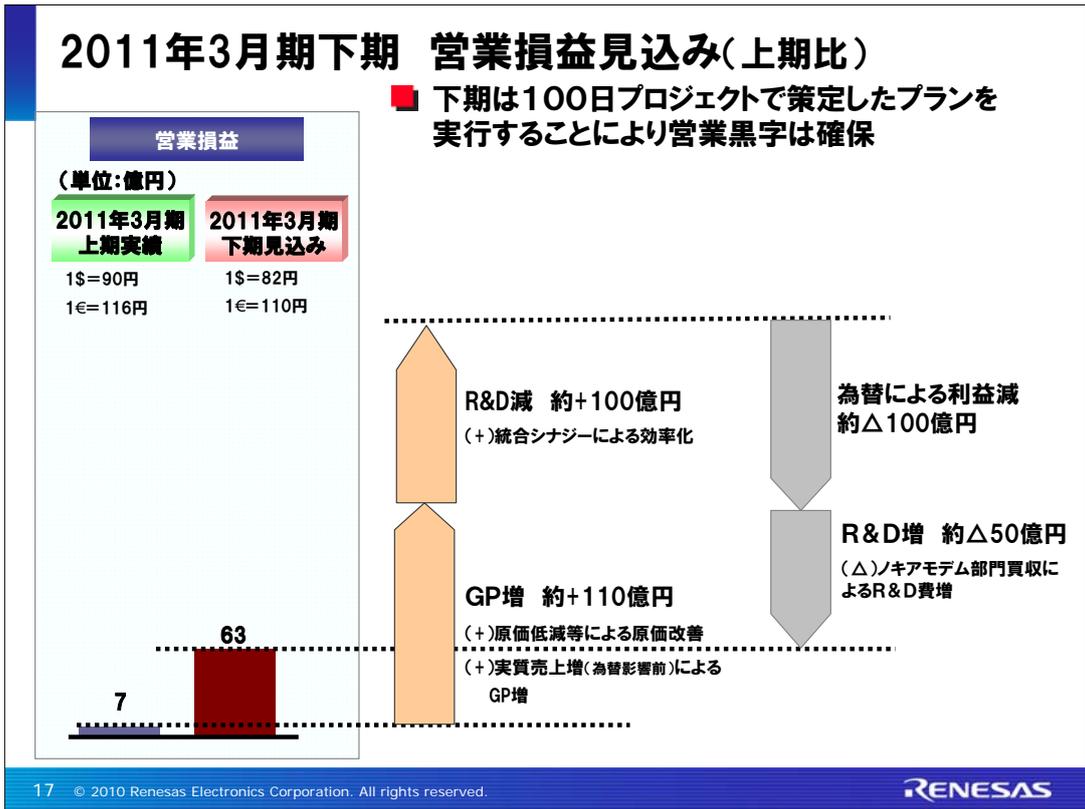
当社のSoC事業の下期売上構成比は、携帯電話で約30%、民生機器で約30%、PC周辺で約20%、その他約20%となっております。

携帯電話市場は、スマートフォンの人気買い替え市場を喚起することに加え、特に新興国における新規需要増により、ワールドワイド全体では出荷台数は増える見通しです。当社においてもスマートフォン向けカメラLSIの需要増、新興国の需要増に伴うパワーアップの伸長、カーナビゲーションを中心としたカーインフォメーションシステム(CIS)の増収を見込んでおります。

民生分野においては、年末商戦後の裏期にあたり、市場は一服する見通しです。

当社においては、国内メーカーを中心にデジタルAV機器の需要は一服する見込みですが、デジタルテレビは画像処理ASICなどを中心に比較的堅調な需要が続く見通しです。

産業機器分野においては、市場が引き続き堅調に推移するとの見通しから、当社においても特に中国および新興国を中心に伸長する見込みです。



17ページは、上期から下期の営業損益の改善見込みについてお示しております。7月29日に発表いたしました100日プロジェクトの策定プランを実行することにより、上期から下期にかけて売上横ばいの前提で、利益改善を見込んでおります。

具体的には、生産増による粗利益の増加、原価低減による原価改善、統合シナジーによるR&D費の効率化を見込んでおります。

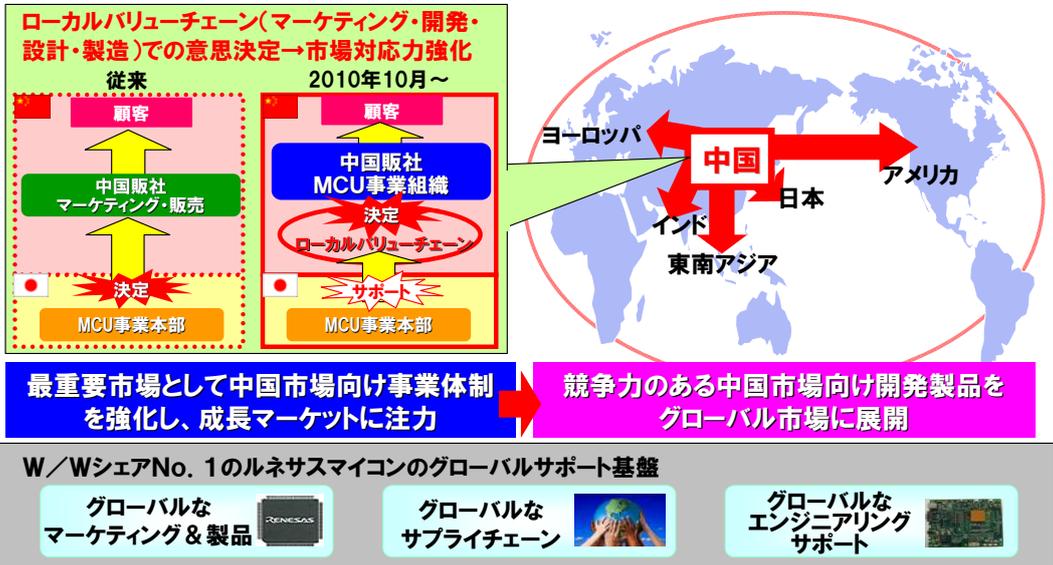
一方で、為替の影響やノキア社のワイヤレスモデム事業を買収したことによるR&D費の増加を見込んでおります。

III. 100日プロジェクトの進捗状況

次に100日プロジェクトの進捗状況についてご報告いたします。

中国に専任のMCU事業組織を設立

- W/W市場を牽引する中国市場を最重要視し、10月1日より中国市場向けマイコン事業体制を強化
- 激変する中国市場の環境・顧客ニーズを迅速に捉え、Just in Function Just in Quality を実現
- W/WシェアNo. 1マイコンのグローバルなサポート基盤上で、競争力ある製品の全方位展開



100日プロジェクトの成長戦略の中でまずはマイコンの進捗状況ですが、

今月初旬10月1日に中国向けマイコン事業の強化としてマーケティングから開発、設計、製造、販売までローカルバリューチェーンを可能とする体制を立ち上げました。

激変する中国市場において、これまでの日本の本社主導での中国向け事業の推進ではなく、現地において、現地の環境、顧客ニーズを迅速に捉え、タイムリーに設計開発や製造の意思決定、Just in Function Just in Quality を実現し、中国向けビジネスの拡大を図ります。

また中国での地位を確立した後は、中国向けに開発した製品を世界各国のニーズに合わせて、ワールドワイドNO. 1の実績のある強力なマイコンのグローバルなサポート力により全方位展開していきます。

アナログ&パワー事業の強化推進

市場成長以上の成長を実現

市場アウトパフォームを目指した成長施策

・低圧から高圧までの**パワー製品ラインアップ強化(3年間で1,000製品投入)**

・マイコン商流を活用したアナログ・パワー・光デバイスの統合キットを拡大し、中国をはじめとする新興国の顧客が容易にセットを開発できるソリューションを提供することで販売を促進

→ **リファレンスボードの提供**

→ **総合版ドキュメントの提供(アプリケーションカタログ107分野完)**

→ **応用技術資料・電源設計支援ツールの提供**

リファレンスボードの例



力率改善AC入力電源



LED照明制御



リチウムイオン電池制御

成長基盤の拡充

前工程:6インチ→8インチ化及びファブネットワーク(甲府、滋賀)の推進

後工程:順次海外展開

次にアナログ&パワー半導体事業の強化です。

当該事業の、市場をアウトパフォームする成長を実現するためには、100日プロジェクトで策定した生産構造対策の中のファブネットワークの構築や大口径化、事業ポートフォリオの適正化による製品力の強化を着実に推進することがまずは第一です。

アナログ&パワー半導体の成長基盤の拡充として、まず前工程において6インチから8インチ化やファブネットワークの構築を推進中です。また後工程においても順次海外展開を図っております。

また、成長基盤の拡充を礎に、市場をアウトパフォームする施策としては、特にパワー製品では開発リソースを集中し、12年度までに約1000の新製品を市場投入します。

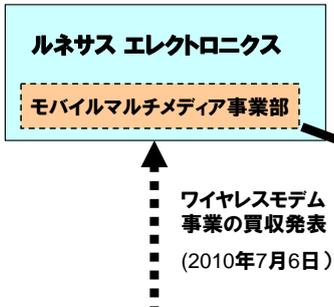
加えて、W/WNo. 1のマイコンの販売チャネルを生かした拡販及びキットソリューションの推進です。アナログ・パワー・光デバイスの統合キットを拡大し、中国をはじめとする新興国の顧客が容易にセットを開発できるソリューションを提供することで販売促進を図ります。

モバイルマルチメディアSoC事業の強化

- モバイルマルチメディア事業の新会社設立及び新会社への事業の吸収分割契約締結
- LTEモデムチップセットの新規受注獲得

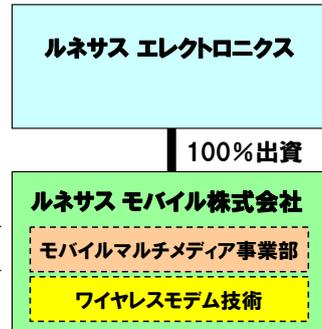
ノキアワイヤレスモデム事業の買収完了

2010年11月30日



ルネサスモバイル株式会社の発足

2010年12月1日



吸収分割

事業譲渡

第一弾として

LTEモデムチップセット
量産開始 11年度後半

スマートフォン市場
モバイルコンバージェンス市場
W/W携帯電話市場

100日プロジェクトの成長戦略として大きな柱になるSoC事業の強化の進捗です。

本日、ルネサスモバイル株式会社への事業の吸収分割契約を締結いたしました。ルネサスモバイル株式会社は本年9月に100%ルネサスが出資し設立した新会社です。ルネサスモバイルへ吸収分割する事業は、ルネサスのモバイルマルチメディア事業及び本年7月にお知らせしたノキアコーポレーションから11月30日付けで買収する予定のワイヤレスモデム事業です。ルネサスモバイルは12月1日の運営開始を予定しております。

ルネサス モバイルは、2010年度第4四半期にLTE/HSPA+技術を搭載した初のモデムチップセットをサンプル出荷し、既に自社製品への採用を決めていただいたノキアなどの顧客に提供していく予定です。

今後、ルネサス モバイルは、携帯電話だけでなくナビ、ネットブックなど多様な携帯機器から成るコンバージェンス市場に、当社の世界No.1シェアのマイコン事業で培った3万社以上の既存顧客との関係を活用して、ノキアのワイヤレスモデム技術と、市場実績が豊富な当社のアプリケーションプロセッサやRF ICなどを組み合わせたモバイルプラットフォームを提供していく予定です。

統合シナジー

販売効率の向上

□ 販売商流の効率化

- ✓ 特約店商流の整理(30社⇒16社)の実施、10月1日より新商流でスタート

□ 販売拠点の統合

- ✓ 国内主要支社/支店17拠点→11拠点へ統合
さらに5拠点を閉鎖し6拠点へ(12月末)
- ✓ 海外の各地域の重複していた販売拠点(販社/事務所含む)統合ほぼ完了

□ 物流、倉庫、情報システムなどの統合(計画通り推進中)

- ✓ 国内、海外倉庫の統合推進
- ✓ 輸出業者の集約、梱包材・業務の統一

製品の統合、設計技術力の向上、生産効率の改善

- 低価格系新マイコンの今年度内投入に向け準備大詰め(旧2社コアは統合へ)
- 開発環境を統合し設計費用削減(計画通り推進中)
- チップサイズ縮小、PKG小型化、テスト時間短縮等(計画通り推進中)

次に統合シナジーの実現に向けての主な取り組み状況です。

販売商流に関しては、統合当初は両社の販売スタイルが大きく違うことから時間がかかるといわれておりましたが、計画通り10月1日から新商流で下期のスタートを切ることができました。

また、販売拠点の統合も進め、国内は統合当初の17拠点から本年12月末には6拠点へ統合及び閉鎖し、海外においても各地域の重複していた販売拠点をほぼ統合し終えました。

更に今後、10年度から12年度にかけて、順次国内、海外倉庫の統合や輸出業者等の効率改善を計画通り推進いたします。

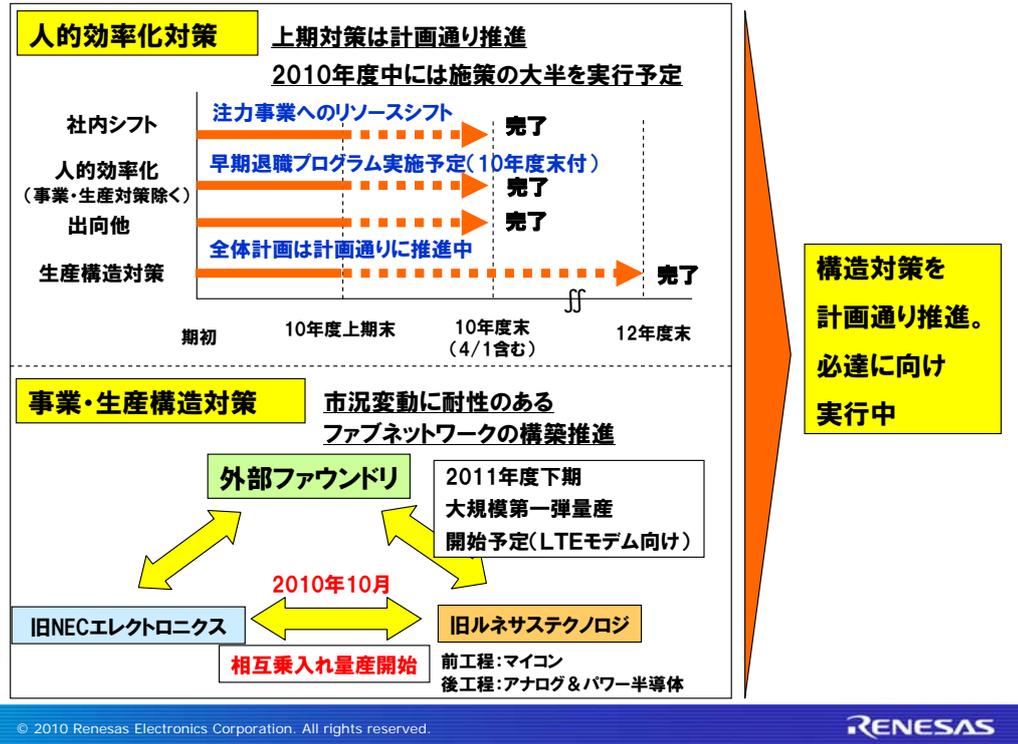
一方、製品の統合、設計技術力の向上、生産効率の改善についても100日プロジェクトで策定した計画を推進中です。

まず、旧2社のコアを統合した低価格系の新マイコンを統合初年度の市場投入に向けて準備を進めています。

この内容については来月に別途事業責任者からご説明差し上げます。

また、開発環境の統合による設計費用の削減、チップサイズ縮小、PKGの小型化、テスト時間の短縮等計画通り進めています。

構造対策



100日プロジェクトの重要な施策として、構造対策の実行への取り組み状況です。まず、人的効率化対策の進捗です。全体進捗として計画通り推進しております。10年度中には本日発表した早期退職プログラムの実施、注力事業への集中を目的とした社内リソースシフトやルネサスグループ外への出向等完了する予定です。生産構造対策に伴う人的効率化も計画通り12年度末にむけ推進中です。

また、事業・生産構造改革においては、外部ファウンドリ含めた旧統合2社の工場間の相互乗り入れをマイコン、アナログ&パワー半導体で10月から開始しました。また、11年度下期には外部ファウンドリと旧ルネサステクノロジの工場間での大規模な相互ファブネットワーク製品第一弾としてLTEモデム向けチップの量産を予定しております。下期も100日プロジェクトで策定した構造対策を着実に実行し、市況変動に強い体質への変革を推進してまいります。

IV. まとめ

最後に本日のまとめでございます。

- **下期については、市況の鈍化や為替の影響があるものの、売上高は上期比で横ばいの見通し。**
- **100日プロジェクトで策定したプランを着実に実行し営業黒字を必達。**
- **来年度の当期黒字、中期的な営業利益率2桁を実現するため、構造対策を推進。**

まず下期の業績見通しにつきましては、市況の鈍化や為替の影響を考慮し、売上高は上期比横ばいとさせていただきます。

一方、100日プロジェクトで策定したプランを着実に実行し、下期および通期の黒字を達成する所存です。

更に、来年度の当期黒字、中期的な営業利益率2桁を実現するため、各種構造改革を確実に実行し、強固な経営基盤を構築してまいります。



2011年3月期第2四半期の決算概要のご説明は以上でございます。
本日は有難うございました。